



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2021年 No.5
(通巻72号)
11月21日発行

まもなく3年目となるコロナ禍ですが、現在、新規感染者数、重症者数もわずかな状況が続いています。このまま終息することを願っておりますが、寒さと共に第6波の到来は必須とされていますので、油断できません。

皆様におかれましては、くれぐれもご自愛の上お過ごしになるよう、お祈り申し上げます。

イベント報告

*** セネガル応援チャリティ企画 【見逃し配信】！！ ***

～本格的なセネガル料理（マフェ）を楽しく作りながらもっとセネガルを知ろう！～#2

多くのご要望にお応えして、8月1日（日）～9月30日（木）の2か月間、6月20日開催のリモート料理教室の「見逃し配信」を行いました。今回は17名の方が参加され、6月20日のライブ配信と合わせて、37名の皆様にご支援をいただきました。ありがとうございました。

経費を差し引いた今回のイベントの収益の総額は、63,255円となりました。

こちらを下記の通り、「ユネスコクラブ（クールマジヤベル聾啞学校）」と、今回のイベントで大変ご尽力いただいた「WITH PEER（セネガルでスポーツを通じて障がいのある子どもたちの社会参加を推進）」へブラインドサッカー実施費用の一部として送金いたしました。

以下、詳細です。

★ユネスコクラブ（クールマジヤベル聾啞学校）

送金額250000Fcf（51,329円） その他、送金手数料300円 計51,629円

★WITH PEER

送金額11,000円

（内訳：アイマスク100円×50枚＝5,000円 ブラインドサッカーボール1個6,000円）

その他、送金手数料209円 計 11,209円

※残金417円につきましては、会の会計に入れ、活動資金の一部とさせていただきます。

送金後、ユネスコクラブ（クールマジヤベル聾啞学校）から感謝のメッセージが届いております。「ご支援ありがとうございました。いただいたお金は、11月8日から始まる新学年度のために使います。具体的には、ノートなどの学用品購入、衛生を保つためのトイレ用洗剤購入、手つかずになっていた校庭の草取りの依頼などです。残りは、学校の預金口座に保管し大切にに使わせていただきます。」

普段、運営の為の資金が不足しているため、先生たちの自助努力で成り立っている面も大きい学校なので、この支援は生徒たちだけでなく先生たちへの励ましとなっています。

写真も来ましたが、まだ夏休み中だったため、生徒は少ないとのことでした。



イベントのお知らせ

***** セネガルフェア *****

日時：2021年12月4日（土） 12月11日（土）

両日とも12:00～17:00

会場：アフリカ料理レストラン『カラバッシュ』 <http://www.calabash.co.jp/>

入場無料

アフリカ料理レストラン『カラバッシュ』

〒105-0013 東京都港区浜松町2-10-1 浜松町ビルB1

JR「浜松町」南口S5階段金杉橋方向出口（S5階段）

より徒歩 90秒

都営浅草線&大江戸線「大門」駅B2出口より徒歩4分

都営三田線「芝公園」A3出口より徒歩6分



カラバッシュの一角をお借りして、おなじみケベサック（セネガルの女性グループ制作のバッグとポーチ）とアフリカ関連書籍（絵本など）、その他アフリカグッズの一斉処分を行います。

12:00～14:00までアフリカランチタイム、その後はアフリカティータイムもお楽しみいただけますので、是非ご来場ください。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第39回 仕事 — 日本人はムスリムでは? —

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

ご存じのように、セネガルの人口の95%はムスリム、つまりイスラム教徒です。このような国で生まれ育った私はごく自然にムスリムになりましたし、学生時代を過ごしたモロッコもイスラムの国ですから、これまで多くのムスリムの姿を見てきました。そのため、ムスリムとはどういうものを十分に理解しているつもりです。

そんな私が30年前に日本にやって来て、日本の人々と日常の生活を共にするに従い、ある不思議な思いを抱くようになりました。それは、日本人はムスリムではないか?ということです。日常生活の基本になっているものの多くが、イスラムの教えと同じに思えるからです。今回は、そのひとつ、日本人と仕事との関わりについてお話しします。

最近まで、欧米の人々は信じていました。日本人はほとんどバカンスを取らずにたくさん働いているので、幸せでなく苦しんでいると。しかし、日本人は欧米の人々が思うほど不幸ではなかったようです。なぜなら、日本人にとって、仕事とは、物質的な利益である給与やその他の特権を得るだけのものではなく、精神的な広がりや深まりを与えてくれるものだからです。このことを初めて聞いたとき注1、私は非常に興味深いと思いました。これこそ、イスラムが教えていることだったからです。もし仕事の目的が物質的な利益を得ることだけだったら、人々は、イスラムの教えに反する個人主義や利己主義に落ちてしまうことでしょう。

確かに、仕事は、人間にとって欠かすことのできないものです。なぜなら、それは、本人と家族の生活を保障し、必要なものを得るための唯一の手段だからです。言い換えれば、人は、食べ、着て、住むために働いているのです。これが仕事の第一の目的です。「もし足が動かなければ、あごは噛むものがない」コンゴ共和国のバクスの人々が、食べるためには働かなければならないという現実をこのように言っています。同じコンゴのルルワの人々も、「刀なしで実は得られない」注2と表現しています。

しかし、第一のものが手に入ると、第二、第三のものが欲しくなるのが人間です。ひとつの要求が満たされると、また新たな要求が生まれます。人間は、決して、現在の状況に満足できないものなのです。食べるもの、着るもの、住むところを確保すると、今度は、否応なく、心の喜びを求めます。家や車といった物質的なものの充足から、アートやスポーツや学びや旅行といった文化的なものへの欲求が生まれることとなります。そのため、ひとつの社会が経済的に発展するにしたがって、住民の新たな要求に応えるために、新たな仕事生まれ発展することになります。

さらに、人間は、物質的なものと文化的なものとの充足だけでも満足できません。人間は社会の中で生きているので、自分の存在を他人から認めもらうことが必要になります。社会の中で自分の存在を認め、ひとつの場所と地位を与えてくれるもの、それが仕事です。仕事が社会的な地位を保証し、高めてくれるのです。仕事とその成果が他の人に認められるという事実が、私たちに、他の人の役に立っている、尊敬されているという感覚を与えてくれます。それは、経済的危機に起因する失業の増加によってしばしばおきる、自殺や他人への殺傷などの悲劇をみると理解できます。失業によって、物質的なもの、また文化的なものだけではなく、社会の中での居場所を失うことになり、この社会的排除の感覚が、そういった問題を引き起こすことも多いようです。

イスラムには、仕事を失うことが社会的排除につながらず、仕事をしない人も100%社会の一員であるとみなされ、尊厳が保たれる社会システムがあります注3。私は、このようなシステムが、他の社会にも生まれることを願っています。

さて、日本の人々が仕事によって多くの面での充足を得て、苦痛ではなく喜びを感じているのだとしても、仕事のやりすぎはしばしば残念な結果となります。「毘をかけすぎると、獲物がくさる」注4とコンゴ共和国のモンゴの人々が言うように。さらには、過労死のような悲惨な事態をも引きおこします。

もっとも、これについては、最近では、下記のように、多くの変化が起きていますが。

*かつては、一度就職すると、その会社を第2の家のように思い、一生を捧げるのが普通でしたが、現在では、キャリアや能力や意欲に従って、転職するのをためらわなくなりました。

*日本の働く人々は、かつては「働きバチ」と言われていましたが、だんだん、より多くの休暇をとり、家族のためにより多くの時間を使うようになりました。休暇をとることを積極的に奨励する企業も増えています。

*政府も企業も、すべてのジャンルのハラスメントを排除するための方策を打ち立てるようになり、労働環境の精神面にも於ける改善が、明確な課題となってきました。

実は、このような、やりすぎを諫めることについても、イスラムでは、あらゆる分野で正式に決められています注5。

イスラムによると、働くことは神への崇敬のひとつの形です。働く人は、手を通して、神の創造の一端を担っていることになるからです。もし日本の働く人々が、ひとえに自分の家族と社会の必要のために働いているとしても、その根底はイスラムの教えと同じです。その証拠に、ひとつのハディース注6を紹介しましょう。「ある日、弟子たちが預言者ムハンマドに尋ねました。あの仕事熱心な男は、神の道にもっと熱心になるべきではないでしょうか、と。ムハンマドは答えました。もし彼が、自分より目下の者たちを養うか、自分より年上の人の必要にこたえるために働いているなら、彼はすでに神の道にいるのである、と」

また、イスラムに於ける仕事の重要性は、次のことからわかります。コーラン第62章、アル・ジュムア章「金曜」に、「礼拝が済んだ後は、再びそれぞれの持ち場に戻り、神の美德を追い求めるがよい」という一節があります。つまり、ムスリムの第一の義務は祈りですが、第二の義務は仕事とされているのです。

仕事に従事することは社会のために有益な行為です。そして、ハラル注7な収入をえるために正直に行動することは、祈りのひとつの形です。ですから、私は、たいへん仕事に熱心な日本の人々と社会は、極めてイスラム的であると思わずにはいられないのです。ムスリムの国だと言いたて、人々が熱心にモスクや他の祈りの場所に通いながら、働くことを軽視し、重要な信仰の基本を犯している人々の国々よりも。

注1 私がフランス語教師として働いているとき、授業の中で、高いレベルの生徒とは多くのことを話し合いました。これは、その中で生徒から教えられたことです。それにしても、私が彼らに教えたフランスやフランス語と、彼らから学んだものを比べると、同じくらいか、後者のほう多いということをお話ねばなりません。

注2 通常、ナッツのからは固いものです。食べられる部分を出すためには、努力が必要です。何かを得るためには働かなければならないということです。

注3 イスラム5行といわれる実行すべき5つの義務（信仰告白・礼拝・喜捨・断食・巡礼）のひとつに、喜捨があります。イスラムでは「この世のすべてのものは神のもの」とされていますから、裕福な人は神から富を預かっているだけで、その中には貧しい人が受け取る分が含まれているので、喜捨によってそれを返すということになります。コーランには、何度も、喜捨をする人は天国に入る、と書かれていますので、喜捨を受ける側は喜捨した人を天国に導く存在になり、なんら恥じることはありません。

喜捨にはザカート（制度として決められているもの）とサダカ（自由意志でおこなうもの）があります。ザカートは、国や地域によって多少の違いがありますが、多くのイスラム国家で税金として存在し、主に失業者対策に充てられています。

喜捨は単に経済的な側面と思われがちですが、「神の前にはすべての人間は平等な存在」という大前提とともに、仕事を失って喜捨を受ける側になっても、社会から排除されるということはありません。

注4 森の中に畏をたくさんかけると、たくさんの獣がかかります。しかし、皮をはいだりして解体したりして獣を役立てるためには、多くの時間が必要です。そのため、ひとつの獣に手をかけている間に、他の獣が腐ってしまうことがあります。

注5 イスラムは、何事につけ、過度や無理を諫め、苦行を嫌います。

例えば、苦行のように思われがちな5行のひとつ、ラマダン月に行う断食（サウム）についても、病気や旅行中、また妊娠中の女性は免除されます。その補完行為で推奨される喜捨についても、「できる範囲で」とされています。巡礼（ハッジ）についても、「無理のない範囲で」おこなうべきものとされ、例えば、残された家族が困窮するような状況で巡礼をおこなうのは禁止されています。

注6 ムスリムが信仰の依拠とするものは二つあります。ひとつはコーランで、神がムハンマドへの啓示という形で天使を通して語ったもの、つまり神のメッセージです。もうひとつはハディースで、預言者ムハンマドの言葉と行動を記録し、集めたものです。

注7 ハラルとは良いもの、正当なもの、合法的なもの、許されているものです、その反対がハラムです。もし社員が決められた時間を守らなかったり、仕事の時間を自分のために使ったり、仕事の電話を私用に使ったりしたら、それはハラムです。自分のものではないものを自分のために使うのですから、盗むのと同じです。

聖戦と訳されるジハードは、本来、自らの内部のハラムと戦い、ハラルな生活となるために努力することを意味します。

お知らせ

バオバブの会の最終総会を、2022年3月13日（日）、保土ヶ谷アワーズでおこなう予定です。
時間などの詳細は後日お知らせいたします。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0054 横浜市保土ヶ谷区西谷1丁目8-7 TEL 045 - 373 - 0059

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先: ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

★HP : <http://the-baobab.org>

★Mail : info.the.baobab.assoc@gmail.com

HP内の「お問い合わせはこちら」からご連絡いただけます。

★Face Bookページ名 : バオバブの会The Baobab Association

URL : <http://www.facebook.com/the.baobab.association>